第３　千秋公園の現状と課題の整理

第３　千秋公園の現状と課題の整理

１　自然要素の現状と課題

⑴　さくらの樹勢の衰えや老木化、更新の停滞

ア　現状と取組

(ｱ)　千秋公園のさくらは、明治２５（１８９２）年に羽生氏熟氏を総代とする「有終会」の寄附によって植えられた１，１７０本に由来し、現在の公園の成り立ちの礎となった祖庭・長岡安平の設計理念にも活かされ、今日に至っています。

(ｲ)　明治時代からさくらの名所として市民に愛され、平成２年４月には「さくら名所１００選」に選定されましたが、老木化、根元の踏圧などにより樹勢の衰えが進行しています。

(ｳ)　市では、「千秋公園さくら再生基本計画」（平成２２年度）を策定し、土壌改良等により樹勢の回復を図ることで、できる限り既存の樹木を残す手法でさくら再生の取組を進めています。

(ｴ)　なお、平成２０年度に「千秋公園さくらファンド」を創設し、その費用を一部に充て、さくら再生に取組んでいます。

明治時代の千秋公園のさくら

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ)　千秋公園への来園目的は、子どもから大人まで「花や緑、自然を楽しむ」が多い一方で、来園が減った理由として、さくらの老木化が進み、花つきが悪くなったことを挙げる人が１割以上を占めています。

(ｲ)　千秋公園の改善すべき点として、多くの市民がさくらの老木の更新や支障木の伐採を挙げています。

ウ　課題のまとめ

(ｱ)　さくらの再生に向けて、既存の樹木を残す取組を進めていますが、抜本的な解決には至っていません。

(ｲ)　さくらの植え替えなどの将来を見据えた、次世代に引き継ぐ取組が急務となっています。

(2) 樹木の生長や過繁茂による鬱そうとした空間や眺望阻害の進行

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園は、自然の丘陵地形を活かした高台に立地しているため、市内を３６０度望むことができる眺望の優れた場所として、市民に親しまれています。

(ｲ) しかしながら、樹木の生長により本園の魅力である眺望や、久保田城御隅櫓や表門などの歴史的建造物を眺める視点も限定されつつあります。

久保田城御隅櫓からの秋田駅方向の眺望

(ｳ) 市では、長坂の法面緑化をはじめ、低木や地被類の植栽などにより、斜面緑地の保護と多様な林床植生の育成は進めてきましたが、高木の密度や樹木の高さの適正化にはさらなる取組が必要です。

本丸周辺の樹林の繁茂状況（昭和初期と現在の比較）

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 写真撮影を目的に千秋公園へ来園した利用者からは、改善すべき点として、鬱そうとした樹木のせん定や間伐のための伐採（開放的な空間や眺望の確保）を望む意見が挙げられています。

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 過繁茂な樹林地については、樹勢が衰えた老木や倒木などの恐れがある樹木を伐採し、鬱そうとした空間を改善していく必要があります。

(ｲ) 眺望を阻害している樹木については、せん定や間伐のための伐採を行い眺望を確保していく必要があります。

⑶ 貴重な動植物の生育や生息環境の保護・保全

ア　現状と取組

(ｱ) 園内には、シナイモツゴ（内堀）やゼニタナゴ（胡月池）、大賀ハス（胡月池）、ニホンタンポポ（御出し書院東側）等、市街地にありながら貴重な動植物が生息・生育しています。

(ｲ) 園内の自然環境の状況を把握するため、市では前計画の自然ゾーンを対象とした自然環境調査（平成１０年度）を実施しています。

(ｳ) しかしながら、貴重な動植物に関する情報など、公園利用者への十分な魅力発信ができていない現状です。

(ｴ) 内堀の水源確保として、外堀から水の供給を行っていますが、シナイモツゴへの影響や種のかく乱が懸念されます。

イ　課題のまとめ

(ｱ) 貴重な動植物の保護を行うため、まず生息・生育状況の実態把握が必要です。

(ｲ) 千秋公園の自然の特徴や貴重な動植物の情報を発信することが必要です。

⑷ 堀の水質浄化の一層の推進と快適性の向上

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園の堀（外堀、内堀）は、城跡としての証であり、貴重な動植物の生息・生育環境であり、公園の玄関口として人々が憩う空間となっています。

(ｲ) しかしながら、底泥の巻き上げや植物プランクトンの増殖により水質悪化が進んだことから、市では、昭和４６年以降水質浄化（旭川からの取水、水のかくはん等）に取組んでおり、平成２５年度には取水量確保のため旭川からの送水管更新整備を実施し、水質の改善に努めるとともに水質調査を継続しています。

(ｳ) 水質が改善されつつある外堀の、親水空間としての快適性を高めるとともに、内堀の水質浄化を推進することが求められています。

外堀の水質浄化（噴水によるかくはん）

内堀の現状

イ　課題のまとめ

(ｱ) 内堀については、貴重な動物（シナイモツゴ）の保護・保全にも配慮した上で、水質浄化を推進することが必要です。

(ｲ) 外堀については、これまでの水質浄化を継続するとともに、公園のエントランス（親水空間）として、快適性を高めていく必要があります。

(5) 四季折々の花や緑による魅力の向上

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園は、市民アンケートによると、約７割の方が、さくらやつつじ、ハス等の「花や自然、緑を楽しむ」ことを目的に来園しています。

(ｲ) 本園では、さくら等以外にも、アヤメやショウブ（あやめ園）、藤（胡月池）、スイレン、コウホネ（茶室宣庵の池）、キツネノカミソリ（茶室宣庵脇）、ジャーマンアイリス（児童遊園地）、ナニワズ（園路沿い）、マルバゴマギ（松下門から管理事務所に至る園路沿い）など、多様な草花に彩られています。

明治時代の藤棚（胡月池）

(ｳ) しかしながら、昔と比べて藤棚も規模が小さくなり、さくらの花つきも悪くなっており、抜本的な改善が必要となっています。

(ｴ) 今後、さくらの更新（植え替え）により、一時的に規模の縮小などが予想されるため、その他の草花の演出を含め、新たな魅力づくりが必要となっています。

千秋公園を彩る四季折々の草花

コウホネ

アヤメ

マルバゴマギ

ジャーマンアイリス

キツネノカミソリ

ナニワズ

イ　課題のまとめ

(ｱ) さくらの根本的な再生を行うことを見据え、千秋公園の特徴である花や緑の演出による新たな魅力づくりが必要です。

(ｲ) 園内に生育している、美しい草花の情報発信が必要です。

２　歴史的要素の現状と課題

(1) 歴史的建造物の復元の困難さ

ア　現状と取組

(ｱ) 前計画では、歴史的建造物として、表門（一ノ門)、黒門、松下門、唐金橋、佐竹史料館（本丸への移転整備）を復元・整備対象としていましたが、平成２９年度時点で整備が完了している施設は、表門のみとなっています。

平成 12 年に復元整備された表門

(ｲ) 整備が進んでいない理由としては、久保田城築城後、何度か大火にみまわれ、配置や構造が変化していること、詳細な資料が十分でなく、史実に則った文化財として価値の高い正確な復元が難しいこと等が挙げられます。

(ｳ) 佐竹史料館は、築６１年を迎え、老朽化が顕著であることに加え、施設の狭あいにより、展示・収蔵品の管理に支障が生じています。

(ｴ) また、改修の対象であった鐘楼は、整備プログラムとしては長期（将来的整備構想）の位置付けとしていたため、現時点では未整備となっていますが、劣化が著しく早期の改修が必要となっています。

劣化が著しい鐘楼

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、公園の来園目的や活動内容は、「散策・ウォーキング」、「花や緑、自然を楽しむ」が多くを占め、次いで「歴史的な建物の見学」、「神社へのお参り」となっています。なお、県外からの来園者では、「歴史的な建物の見学」が一番多く、約２９％を占めています。

(ｲ) 来園者や市民等アンケートによると、公園で利用した施設は「久保田城御隅櫓」と「久保田城表門」などの歴史的建造物の利用の割合が高く、特に、県外からの来園者ではその傾向が高くなっています。

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 参考となる歴史的資料の不足等から、歴史的建造物の復元・整備が進んでいません。

(ｲ) 歴史的建造物である「久保田城御隅櫓」や「表門」は公園利用者の利用割合が高く、県外利用者においては、「歴史的な建物の見学」が主な利用目的となっていることからも、城跡公園としての歴史要素のさらなる充実が求められています。

(ｳ) 佐竹史料館は施設の老朽化が顕著であり、公園の魅力向上に寄与する施設として、早期の改修整備が必要です。

⑵ 歴史的遺構等の案内や解説の不足

ア　現状と取組

(ｱ) 茶室（宣庵）の舟形手水鉢や御出し書院跡など、歴史案内板などが不足している箇所があります。

(ｲ) 一部の解説板等の表記内容の情報が更新されていないものもあります。

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、改善すべき点として、「案内板や誘導標識の充実」を求める意見が、「駐車場の増設」や「さくらの老木更新・支障木の伐採」とともに多くなっており、特に県外からの来園者に限定すると、最もニーズが高く、約３６％を占めています。

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 説明が必要な歴史的遺構の案内板が不足していることに加え、歴史情報が乏しい解説板があります。

(ｲ) 歴史的な視点からの見学者も多い県外からの利用者が、案内板等の充実を求めていることからも、案内板の適切な配置と正確な情報提供が必要です。

⑶ 土塁等、特徴的な地形の保全

ア　現状と取組

(ｱ) 久保田城は、丘陵地形をそのまま活かした平山城であり、千秋公園には、その特徴である地形（土塁等）が多く残っています。

(ｲ) 歴史資源として、現在に至るまで改変を極力抑え保全していますが、樹木の生長等により表土の流出や、崩壊のおそれがあります。

表土の流出が見られる土塁

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 久保田城の特徴である土塁や丘陵地形は、城を守る施設として歴史的にも貴重な遺構ですが、一般の公園利用者には分かりにくく、その価値を伝える必要があります。

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 久保田城の特徴である土塁や丘陵地形は、樹木の生長等により表土の流出や崩壊のおそれがあり、保全していく必要があります。

(ｲ) 丘陵地形を活かした、特徴的な地形である土塁の価値を、分かりやすく公園利用者へ伝える必要があります。

(4) 歴史的要素の視認性阻害と景観調和要素

ア　現状と取組

(ｱ) 一部の樹木や電線等が、歴史的要素である表門や久保田城御隅櫓などの施設の視認性を阻害しています。

(ｲ) 園内には、城跡や公園の景観に馴染んでいない私設建造物や電柱などが点在しています。

(ｳ) 私設建造物等は、移転やデザインコントロールを進める方針となっていますが、所有者との調整等の問題から進展していません。

久保田城御隅櫓の眺望を阻害する樹木

園内の電柱や電線

イ　課題のまとめ

(ｱ) 一部の樹木や電線等が歴史的要素の視認性を阻害しており、景観性向上や利用促進を図るため、阻害要素の除去が望まれます。

(ｲ) 公園内の私設建造物等は、デザインコントロール等によって、できる限り公園の景観に馴染むよう調整することが望ましいです。

３　利用面の現状と課題

(1) 駐車場の不足、急傾斜（坂道）な地形

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園内の駐車場は、児童遊園地の南側にバス専用駐車場（７台)、二の丸に隣接してコインパーキング（１４台）が整備されていますが、駐車可能な場所や駐車台数が非常に少ないのが現状です。

(ｲ) 千秋公園は、久保田城跡の地形を活かし、三段の段丘からなっており、本丸と外堀では標高差が３０ｍにも及ぶ急傾斜（坂道）となっていますが、長坂の階段への手すりの設置など、段階的に改善を進めています。

二の丸近くのコインパーキング

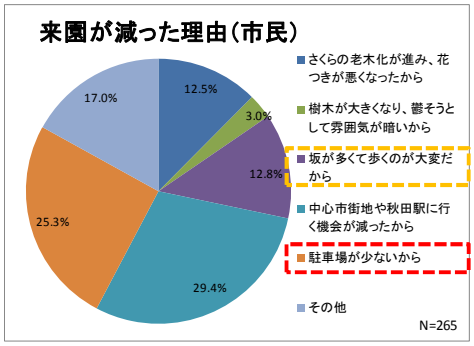
長坂の坂道改善策（手すりの設置）

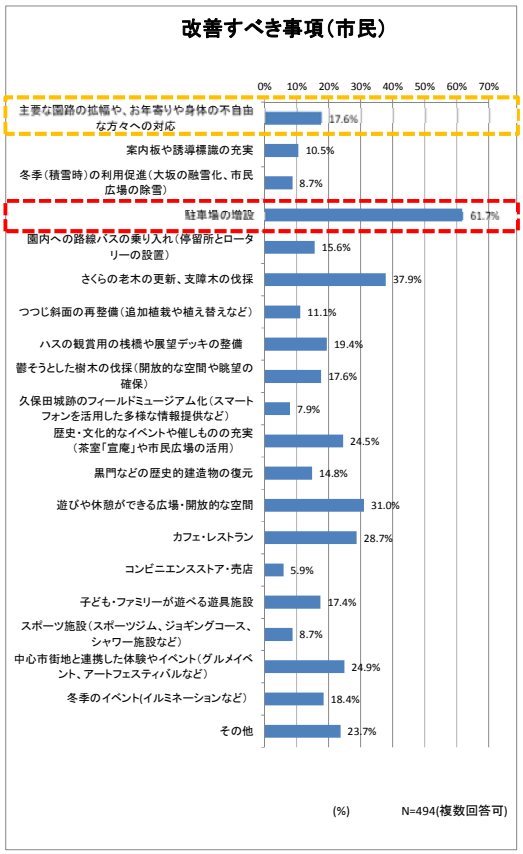
イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、千秋公園への来園は、徒歩が約６割と最も多く、次いで自家用車が２割弱となっていますが、自家用車での来園者のうち、園内の駐車場に駐車した人は２割程度となっています。

(ｲ) 市民アンケートによると、昔と比べて来園が減った理由として、「駐車場が少ないこと」が約２５％、「坂が多いこと」が約１３％を占めています。

(ｳ) また、改善してほしい点として、「駐車場の増設」が約６２％と非常に高く、「園路の拡幅やお年寄り等への対応」も約１８％となっています。





市民アンケート結果【来園が減った理由、改善すべき点】

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 市民のニーズが非常に高い駐車場が不足しています。

(ｲ) 城跡公園の特徴で保全すべき丘陵地形が、公園利用上（特に高齢者）の障害となっています。

(2) 子どもの遊び空間（遊具）の不足

ア　現状と取組

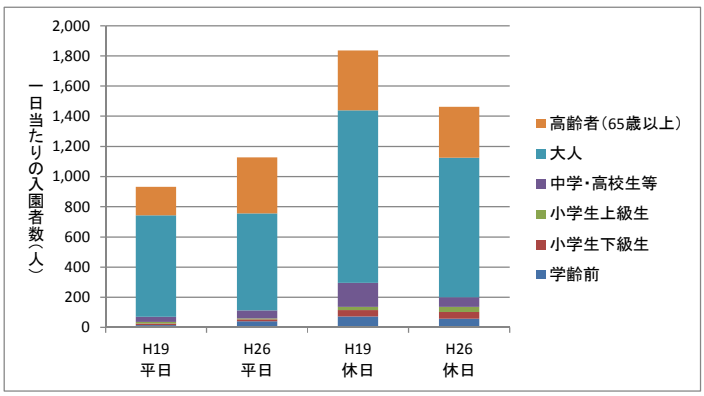
(ｱ) 子どもの遊び場として、市民広場以外に、ブランコや滑り台などの遊具が設置されている児童遊園地がありますが、段丘に挟まれ高低差が大きく、幼児連れの家族などにとっては、移動が大変で使い勝手の悪い配置となっています。

現在の児童遊園地

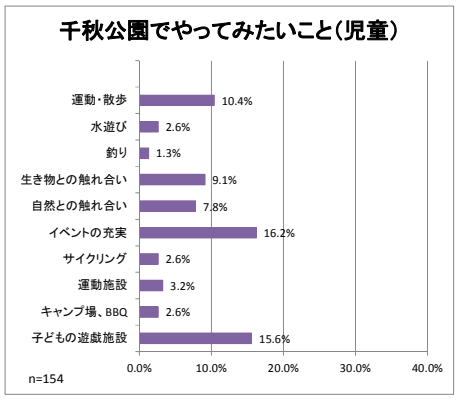
イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 千秋公園の利用実態調査（平成２６年度）によると、公園利用において、一般的に多いはずの子どもの割合が非常に少なくなっています。

(ｲ) 近隣小学校の児童（５年生）を対象に実施したアンケート結果によると、千秋公園でやってみたいことは、楽しい遊具やアスレチック、自然や生き物との触れ合いなどの意見が多くなっています。



千秋公園への年齢層別の来園者数



児童アンケート結果

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 既存の遊具施設があるものの、立地環境が悪く有効に利用されていません。

(ｲ) 公園の自然や地形を活かした遊びや遊具施設のニーズが見られます。

⑶ 公園エントランスでの案内板・誘導標識の不足

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園には、市民の日常的な花や緑の観賞、自然とのふれあい、散策・ウォーキングのほか、観光目的による歴史散策や諸施設の見学など、県外利用者も多く見られます。

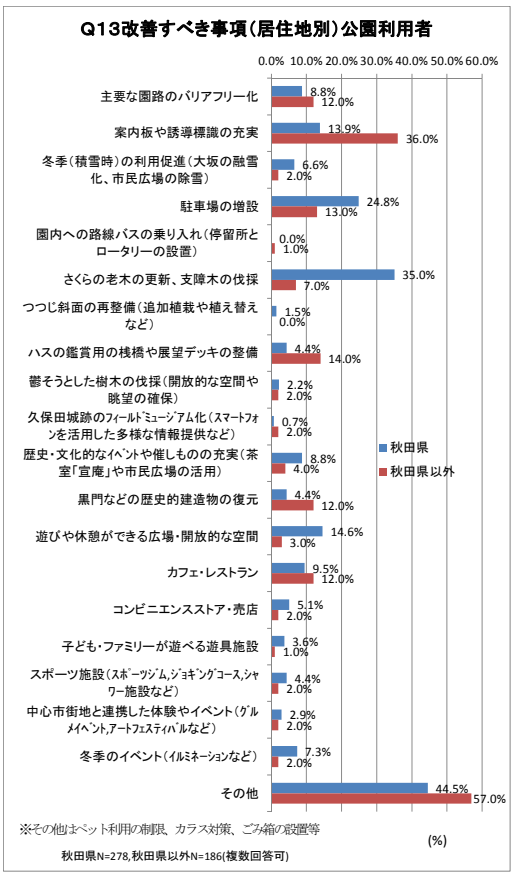
(ｲ) 園内には、市民広場や東側ポケットパークへ総合案内板、表門や久保田城御隅櫓等の歴史的建造物へ解説板、園路や分岐点には誘導標識を整備しています。

(ｳ) 案内板や解説板、誘導標識の多くは、二言語表記（日・英）されているものの、訪日外国人として増加している中国や韓国、台湾をはじめとしたアジア系の言語には対応していません。

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、県外からの来園者は、改善してほしい点として「案内板や誘導標識の充実」が約３６％と最も多く、中心市街地から公園へのエントランス（中土橋）での案内板がないことが要因となっています。

園内の案内板等の設置状況



来園者の改善すべき点

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 公園のエントランスへの案内板・誘導標識の充実を図る必要があります。

(ｲ) 訪日外国人（観光客）の多様化に配慮した多言語表記の充実を図る必要があります。

⑷ 利用特性と整合していない休憩施設やトイレの老朽化

ア　現状と取組

(ｱ) 園内には、市民広場や久保田城御隅櫓周辺など、８箇所にトイレが整備されていますが、一部のトイレは老朽化が進み、またバリアフリー化もされていません。

(ｲ) 園内各所に休憩施設（四阿、ベンチ）が整備されていますが、来園者の利用が集中する市民広場では、イベント時には不足する一方、現在の利用状況からあまり使われていない休憩施設も点在しています。

園内に設置された和式トイレ
（馬場のモミ脇）

イ　課題のまとめ

(ｱ) トイレの老朽化が進み、一部バリアフリー化されていないものがあります。

(ｲ) 公園利用の状況から設置効果を発揮していない休憩施設が点在しています。

⑸ 利用者ニーズに合った飲食施設の不足

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園内には、市民広場の千秋公園売店のほか、私設店舗が複数設置されています。

(ｲ) 秋田の文化（あきた舞妓）の鑑賞や喫茶・飲食ができる複合施設として、秋田文化産業施設「松下」が平成２８年６月にオープンしています。

園内に設置された売店（市民広場）

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者や市民および学生アンケートによると、改善してほしい点として、カフェやレストランなどの飲食施設の設置を求める意見が多くなっています。

(ｲ) 一方、商業・観光関係者アンケートによると、千秋公園での事業参入意向について、複数企業でカフェ・レストラン等の収益事業、イベント時の出店（飲食）を挙げています。

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 利用者ニーズに合った飲食施設（カフェ・レストラン）が求められています。

4　中心市街地との連携に関する現状と課題

(1) 芸術文化施設との連携

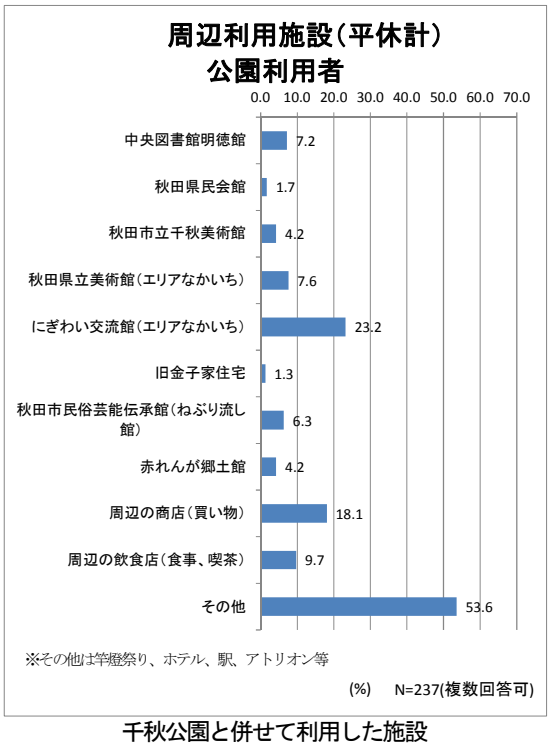
ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園の玄関口（中土橋周辺）には、秋田県立美術館やにぎわい交流館が立地し、さらに将来的に県・市連携文化施設の整備（現県民会館の敷地）や旧県立美術館の利活用が計画されています。

(ｲ) このような芸術文化施設と、本市の歴史の象徴であり、市民の憩いの場である千秋公園において、動線を強化し回遊性を高めることは、駅前や中心市街地の活性化、さらには本市の魅力向上にとって重要です。

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、千秋公園と併せて利用した施設として、にぎわい交流館のほか、秋田県立美術館、中央図書館明徳館および秋田市民俗芸能伝承館等の芸術文化施設の割合が比較的高くなっています。



千秋公園と併せて利用した施設

ウ　課題のまとめ

(ｱ) 中心市街地の交流拠点として、芸術文化施設との相互利用を促進していく必要があります。

(2) 案内拠点・行動起点としての東側ポケットパークの機能向上

ア　現状と取組

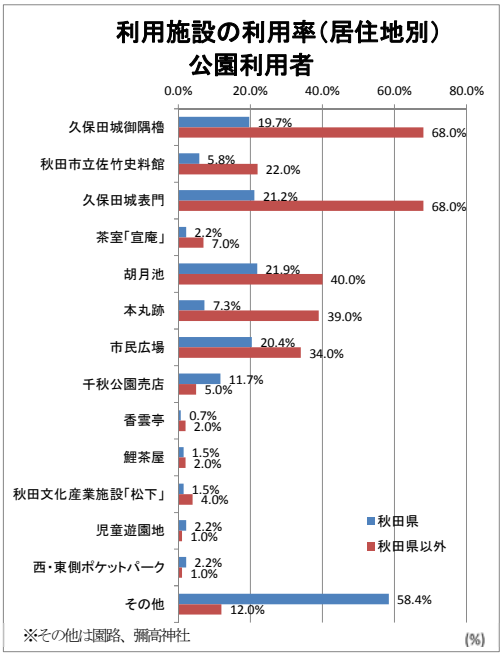
(ｱ) 千秋公園の外堀の東端・西端には、それぞれ親水空間としてポケットパークを整備（平成８年度、平成２４年度）しています。

(ｲ) 特に東側ポケットパークは、ＪＲ秋田駅方面からの来園者の案内拠点として位置づけ、公園までのアクセスルートや園内マップ等の案内板を設置しています。

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、ポケットパークの利用は少なく、千秋公園の案内拠点・行動起点として十分に活用されていないのが現状です。

東側ポケットパーク



来園者アンケート結果

ウ　課題のまとめ

(ｱ) ポケットパークの利用が少なく、千秋公園への案内拠点・行動起点となっていません。

(3) 親水空間としての外堀周辺の景観の向上

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園（都市計画公園区域）の西側外堀沿いには住宅や商店が立地しており、親水広場として西側ポケットパークを整備したものの、堀沿いの散策や修景空間として十分に機能していません。

(ｲ) 今後、県・市連携文化施設の整備が進むことから、芸術文化の香り高い空間、親水空間として景観を向上させていく必要があります。

西側外堀沿いの景観

イ　課題のまとめ

(ｱ) 西側外堀沿い（都市計画公園区域）に住宅・商店が立地し、親水空間として景観の調和性が低くなっています。

５　運営・維持管理面の現状と課題

(1) 公園の再整備・維持管理費の縮減

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園では、前計画に基づき、歴史ゾーン、自然ゾーン、市民交流ゾーンおよび文化ゾーンの再整備を進めています。また、公園の運営・維持管理は、日常的な清掃や点検、植栽管理や設備管理などについて、直営および委託などで行っています。

(ｲ) しかしながら、人口減少社会、超高齢化社会の深刻化に伴い、本市においても財源や人材の制約により、より一層の低廉かつ良質な公共サービスの提供が必要となっており、千秋公園の再整備や運営・維持管理においても例外ではありません。

(ｳ) このことから、既存の公園施設は、長く大切に使うことを前提とし、適切な補修や改修により長寿命化を図ることが重要となっています。

(ｴ) 公園サービスの提供に当たっては、公的資金や人材だけではなく、市民やボランティア、さらには民間企業を含めた公民連携による公園の運営マネジメントが求められています。

イ　課題のまとめ

(ｱ) 財源や人材の制約により、公園の再整備や維持管理費の縮減が求められています。

(2) 公園管理事務所の老朽化と機能低下

ア　現状と取組

(ｱ) 市では、千秋公園を含めた市内の全都市公園を対象に「秋田市公園施設長寿命化計画」（平成２５年度）を策定し、長寿命化対策および計画的な更新などの予防保全的管理により、ライフサイクルコストの縮減を進めています。

(ｲ) 公園管理事務所は、老朽化が進んでいることに加えて、公園の南西端に位置し、公園の利用拠点や主動線からも離れていることから、公園の窓口機能や情報発信機能として十分に発揮できていません。

公園管理事務所

イ　課題のまとめ

(ｱ) 公園管理事務所の老朽化と機能低下が進行しています。

⑶ 公園の魅力や歴史的価値の認知度が低い

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園内には、歴史的建造物（久保田城御隅櫓、本丸跡、長坂、黒門、表門等）や人々が集まる空間（市民広場、ポケットパーク等）に案内板や解説板を設置しています。

(ｲ) 市のホームページでは、千秋公園の紹介サイトを整備しており、園内の歴史的建造物、彫刻、碑の紹介、園内に生育している樹木の紹介のほか、公園マップも提供しています。

イ　市民・利用者等の意識やニーズ

(ｱ) 来園者アンケートによると、県外からの来園者は、案内板や誘導標識の充実を求める意見が多くなっています。一方で市民アンケートによると、城跡公園としての価値や花や緑の魅力をもっと観光客等へＰＲすべきとの意見も多く見られます。

ウ　課題のまとめ

(ｱ) ハード（案内板・解説板）とソフト（ホームページ）で、公園情報の提供を行っていますが、認知度が低く、情報提供が十分に機能していません。

⑷ 利用（都市公園）と保護（文化財）の両立

ア　現状と取組

(ｱ) 千秋公園は、市民の憩いの場としての都市公園の側面と、歴史的価値が高い文化財（市指定名勝）の側面を有しています。

(ｲ) そのため、都市公園として来園者への利便性や公園機能を向上させる取組が、一方では文化財としての価値を低下させる可能性があり、再整備や維持管理の実施に当たっては、常に利用（都市公園）と保護（文化財）のバランスを図っていく必要があります。

イ　課題のまとめ

(ｱ) 城跡公園として、利用（都市公園）と保護（文化財）のバランスの図られた再整備・維持管理が必要です。